



夕刊
日六五
發行所 常磐新聞社
印刷日 昭和三十五年七月五日
部二第 一月三十日
張料 一行 五十銭



クヌシリ
外に遊泊するが例年観光客
と殺倒と乗組員の陸揚げ
を奇貨として不良船業者
が跋扈するの、縣保安課で
もこの取締りに研究中
あるが小名濱軍人分會では
これに先立って船三隻を
設備、陸上と軍艦との連絡
を一手に引受け徹底的に不
良船業者を撲滅することに
なつた、渡賃も安く大人二
十銭、小十銭の豫定
(以上茨城縣)

鯉五千本水揚げ
けき小名濱魚市場へ
諏訪神社の大祭を明日に控へ、今日小名濱町魚
市場に鯉五千本が水揚げされた、宮城縣氣仙沼の國
宮丸が廻船したもので御祝儀格場は八、九割地元
水揚げは例年に比べ約二十日程早い

謹告
五月七日(舊四月八日)は
小名濱町鎮守諏訪神社大
祭に付き敬意を表し當日
発行の夕刊を臨時休刊仕
候
常磐新聞社

春職揚操業は欠損 業者は対策に腐心

網の損害だけでも甚大

近年急激に網を引く網が三ヶ年間に於いて、南町平産養護婦學校の合
る本縣下の揚操業は秋が春職に繰り替はれば一ヶ年で格者は左の如く好成绩を
ら冬にかけて好漁期とされ使用不能におちいり結局莫げた
何れも相當の利潤を得て大なる欠損を來すと述懐して△産養 岩倉正子 高島
が春職になると殆ど欠損ある以上の事實は一般揚操
績の状態である、或る業者にとつては極度の重大
者は四ヶ年平均を見て欠損な問題で春職漁業の前途に
であり然も秋職のみで春職について熱心な研究をつい
を休めば一條一萬三千圓の欠損

機船底曳整理組合の 北支沿岸視察員派遣

製造家方面にも同伴勧誘

本縣機船底曳整理組合では行を希望して勧誘して居る
既報の如く四十隻の整理船一人當り大體の經費は約八
を最も効果的に且つ適切な百圓と、される爲め何れも
る方法で活用すべく北支沿岸視察員を派遣される事を希
支沿岸の底曳漁業を調査して居る
べく一十圓の豫算を組み縣
及び郡水産會の補助を受け
愈々本月中旬三名の人員を
選んで出立する事になつたが福島、茨城兩縣の視察船
整理組合では、この際製造及び産養試験(實地學術共)
家及び鮮魚商方面より同合格者が発表されたが平市

合格者
産養 合格者
看護婦 合格者
坂本トメ子 佐藤初子
根本ナカ 山田綾子
木井イ子(以上福島縣)
田中ハル 中野サツキ

重役増員及び減資を附議
小名濱町警備海岸軌道株式會社では五月十七日臨

不正解船業 撲滅

軍人分會乗出す

海軍艦上簡點點呼執行のため現に警備に躍進を期し
の軍艦「春日」は来る十七
日から十九日まで小名濱港
に支店を設け日本水素の出
店では今回西金石門向ひ
小名濱町金時パー登長瀬肉
金時パー支店開業
小名濱町警備海岸軌道株式會社では五月十七日臨

バス衝突の機關士 不可抗力で無罪の判決

昨夏七月十二日常磐線木戸結果五日前午十時「不可抗
機關内踏切りにおいて相馬力」の理由で無罪の判決を
野邊トミ 星ヨシイ 酒に大形バスが急行列車と衝突した
野邊トミ 星ヨシイ 酒に大形バスが急行列車と衝突した
野邊トミ 星ヨシイ 酒に大形バスが急行列車と衝突した

警炭 縣からお目玉

濱崎副所長明日中に出福

常磐炭礦界の雄城炭礦が一級に多大の關心を持たせ
縣保安課のきつお目玉を
眞誠し狼狽してゐる
炭では平市濱崎町火力發電
所の石炭の開始に昨年六
月仙臺山監督局の許可を
得て隣村神谷村大字上神谷
地内に至る延長二キロの鐵
索を設け一日約八十臺のパ
ケットで百七十トン乃至二
百トンの炭を運んでゐる
この監督權を有する縣警
局に何等許可申請をなさず
敬次の督促もやむやなし
てゐるので縣保安課が斷乎
たる處置に出すべく濱崎等
炭礦所長の出縣を命じた、
濱崎氏は今明兩日中に出縣
するが警炭側では前氏の出
縣に先立ち五日に許可
申請をなした、濱山監督局
の地方移管が叫ばれてゐる
折柄、警炭の奇矯な態度が

開業
内科小兒科
皮膚科
其他一般
西山醫院
醫學士 西山 敬久
江名町學校下

齒科一般口腔外科
鈴木齒科醫院
院長 鈴木 正
小名濱町中町

巷の聲

勇士の遺骨凱旋は見物すべし... 遺骨凱旋の見物すべし... 遺骨凱旋の見物すべし...

産院完備入院隨時 愛婦福島支部囑託 健康保険指定 産婆近藤かぬ 電話二三三番 小名濱町後宿

江尻医院 醫學博士 江尻伊三郎 門 泌尿器科 皮膚科 專 花柳病科 幸樂 味覺の殿堂 小松洋服店 皇恩會

會田醫院 外科 花柳病科 小兒科 日本曹達株式會社 江名工場 耳鼻咽喉 小名濱分院 大和田耳鼻喉科醫院 近郊春の行樂に 鐵道省指定旅館 小瀧 公告 契約者本位 一家の延長として 湯本無盡 産院の設備は 久保田産院 平屋靴靴店